

チャイルドシート購入助成金事業の 行政評価について

平成 25 年 12 月

市民生活課 生活安全係

1. 県内他市の支援状況

助成金制度を設置している市町

三原市・・・6歳未満の児童を養育している保護者、1台につき5,000円以内
購入金額が5,000円未満の場合は、購入相当金額

助成状況

H22 359件、1,783千円

H23 376件、1,884千円

H24 386件、1,934千円

購入又はレンタルに対する助成制度を設置している市町

安芸太田町・・・乳幼児一人につき1回のチャイルドシートの購入金額またはレンタル料金の2分の1を乗じて得た金額。ただし1万円を上限。

貸出制度を設置している市町

- ・北広島町（有償、6ヶ月まで）
- ・熊野町（子育て支援センター）
- ・坂町（無償、1～6ヶ月）
- ・三次市（有料、期限付き）

2. 指標の検討

(1)インプット指標（投入）

事業に対する行政資源の投入量を測る指標。

チャイルドシート購入助成金は、申請が先行し、それを受けた上で交付決定をしていくことになるので**助成額**を指標とする。

助成額 H22 271千円 H23 409千円 H24 352千円

(2)アウトプット指標（結果）

事業実績を測る指標。

チャイルドシート購入助成金の申請件数や交付件数が考えられる。本助成金については、申請のあったものについては概ね審査により適当として交付決定を行っている。申請件数は交付件数に等しいと考えられるため、アウトプット指標としては**交付件数**を設定する。

交付件数 H22 59件 H23 87件 H24 78件

(3)アウトカム指標（成果）

具体的な効果や効用を基準とする指標。

チャイルドシート購入助成によって、交通安全対策の向上、保護者の経済負担軽減など目的に則した指標が考えられる。そこで、候補としていくつか指標を挙げ、特徴から最も妥当な指標を設定する。

チャイルドシート装着率

本事業によって庄原市内におけるチャイルドシート装着率が高くなると考えられる。

- ・毎年、全国の8地域定点で、チャイルドシート装着率の調査を行っている。
- ・広島県では、広島市安佐動物公園、国営備北丘陵公園、福山市立動物園で実施。

チャイルドシート着用率

	24年度	23年度	22年度
安佐動物公園	84.0%	78.4%	79.3%
備北丘陵公園	51.1%	51.8%	68.5%
福山動物園	67.6%	65.8%	58.0%
広島県	71.6%	77.6%	65.9%
全国	58.8%	57.0%	56.8%

チャイルドシート使用状況全国調査(警察庁・JAF)より提供

妥当性・・・チャイルドシートの装着の程度を調査した、唯一の指標である。

問題点・・・庄原市民を対象とした調査でなく、施設を利用する人を対象とした調査になる。

備北丘陵公園で調査した際も、かなりの数が県外ナンバーの車であった。

交通事故に占める乳幼児負傷者率

本事業によって庄原市内での交通事故における乳幼児負傷者率が減少すると考えられる。

広島県内の市・区・町別交通事故発生状況表(高速を含む)

区分	平成22年			平成23年			平成24年		
	件数	死者数	負傷者数	件数	死者数	負傷者数	件数	死者数	負傷者数
庄原市	106	4	155	113	4	141	117	1	155
うち幼児	0	0	2				0	0	2
割合	0.00%	0.00%	1.29%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.29%
三原市	598	8	802	486	5	627	463	9	645
うち幼児	0	0	23	1	0	13	1	0	12
割合	0.00%	0.00%	2.87%	0.21%	0.00%	2.07%	0.22%	0.00%	1.86%
広島県	16,546	127	20,653	15,697	113	19,623	14,849	125	18,486
うち幼児	8	2	402	6	0	363	5	0	342
割合	0.05%	1.57%	1.95%	0.04%	0.00%	1.85%	0.03%	0.00%	1.85%

広島県環境県民局県民活動課よりデータ提供

妥当性・・・県内各市町との比較ができるデータである。

問題点・・・交通事故全てを対象としており、車運転時だけの統計となっていない。人対車、車対車など様々な状況が含まれて下り、自動車事故における乳幼児負傷者を特定することができない。

自動車事故における乳幼児負傷数とチャイルドシート装着率

本事業によって庄原市内でのチャイルドシートの装着率が上がり、交通事故による乳幼児の負傷者数が減少すると考えられる。また、交通事故時に乳幼児が負傷した時の重症度を測定した指標

はないが、チャイルドシートの装着の有無が、負傷の程度を大きく左右すると考えられる。

庄原市内における自動車事故による乳幼児負傷者数とチャイルドシート装着の有無

庄原市		平成22年	平成23年	平成24年
乳幼児負傷者数		2	0	0
うち	チャイルドシート着用あり	2	0	0
	割合	100.0%	-	-
(参考)広島県 自動車事故発生時のチャイルド シート装着率		73.1%	79.3%	79.6%

庄原警察署より聞き取り

妥当性・・・自動車事故時における乳幼児負傷数を示す直接的なデータである。

問題点・・・庄原市として、データの母数が少ない。事故の際、乳幼児に負傷がなかった場合のチャイルドシート装着の有無はカウントされない。公表されているデータではないため、警察署に依頼する必要があるため、抽出に膨大な時間がかかる。

経済的負担軽減についての満足度

本事業によって、保護者の経済的負担軽減が期待される。

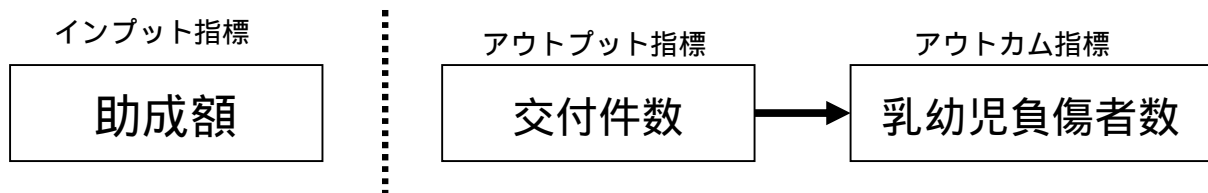
妥当性・・・子育て支援という事業の目的に沿った指標である。

問題点・・・本事業による満足度といったアンケート調査は実施しておらず、データが存在しない。

以上の4指標より、この度の評価では指標の「自動車事故における乳幼児負傷数」をアウトカム指標として設定する。理由としては、本事業によって、庄原市民のチャイルドシートの装着率が向上し、結果として交通事故による乳幼児負傷者数が減少する可能性が高いと思われる。

指標は庄原市民としてのチャイルドシート装着率を測定したという妥当性に乏しく、指標は、乳幼児の負傷者数が自動車事故時に限らないものであるとして妥当性に乏しく、指標は測定していない。

指標のまとめ



3. 目標値（基準値）の設定

各指標について将来に目指す水準を定める。

（例）

- ・理想値 事業の効果が発揮されることで実現する理想的な状況により設定
- ・ニーズ対応値 アンケート調査等を通じ把握した市民の要求水準により設定
- ・先進事例値 先進事例に追いつくことを目標とし、その事例の水準を基に設定
- ・平均水準値 全県、周辺市町村の平均水準に到達することを目標とし、その値を設定。
- ・格差解消値 他の事例と比較し、サービス水準が劣る部分を解消すること目標とし、その値を設定。

アウトプット指標の目標値

交付件数・・・チャイルドシート購入後の申請であるため、申請件数が増えたからといってチャイルドシートの普及が促進されるわけではないが、申請によってチャイルドシートが普及されていることを確認するという意味で申請件数の増加は望ましい。出生届時に本制度の案内をすることが多いため、出生者数に対する申請割合を目安として目標を設定する。

同助成制度を設置しており、年々申請件数が増加している三原市を先進事例として目標とする。

	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	出生数	交付件数	割合	出生数	交付件数	割合	出生数	交付件数	割合
庄原市	233	59	25.32%	248	87	35.08%	246	78	31.71%
三原市	765	359	46.93%	770	376	48.83%	741	386	52.09%

平均		
出生数	交付件数	割合
242	75	30.81%
759	374	49.25%

三原市の出生数に対する交付件数割合が平均、庄原市 30.81%に対し、三原市は 49.25%と高い。三原市の水準に近づけるため、以下のように目標値を定める。

庄原市の平均出生数 242 × 理想交付割合 49.25% = 119 件

119 件を目標値と定める。

アウトカム指標の目標値

乳幼児負傷者数・・・負傷者数は減少することが望ましいという指標の特徴があり、他の事例と比較することよりも、理想値を目標値とすることが妥当と考える。

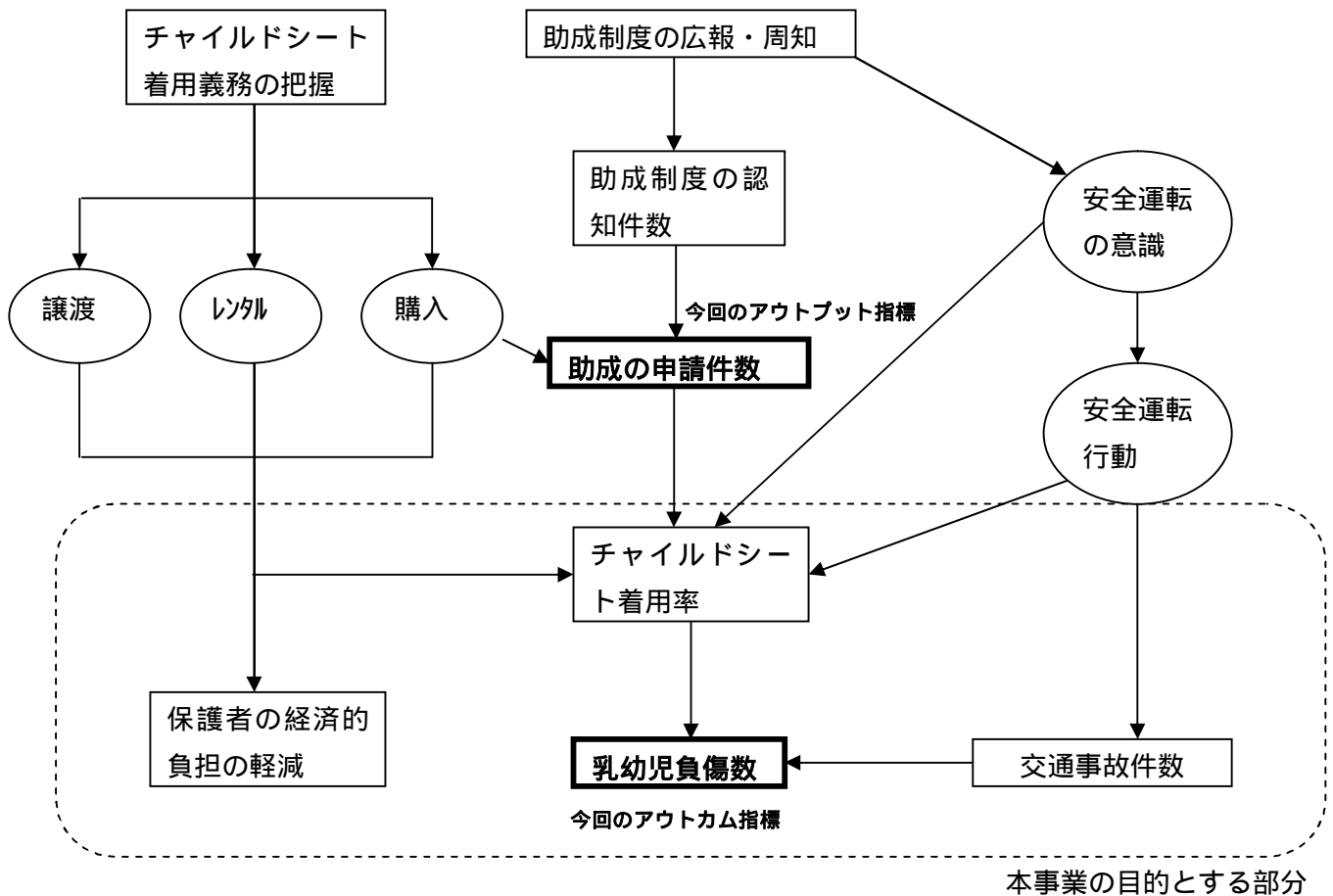
庄原市の過去の実績を基に、目標値を定める

H22 : 2 件 H23 : 0 件 H24 : 0 件

望ましい理想の状況は、負傷者数が発生しないことであり、**0 件を目標値と定める。**

予測される要因影響モデル

交通安全行動や結果として現れる事故件数には様々な要因が複雑に影響しあっていると考えられる。指標を適切に設定し、要因間の影響力を詳細に分析した上で、事業効果の検証を行うことが望まれる。



今後の展望

道路交通法による着用義務が徹底されてきていることもあり、本事業が大きく交通安全対策の向上に寄与しているわけではない。ただし、保護者の経済的負担軽減としての事業の効果はあると考えられるため、外部評価やアンケート調査を実施することで、本事業の効果を改めて検証してみる必要がある。